

【厚生労働大臣賞：小学生の部】

「わたしのおとうと」

岐阜県・大垣市立荒崎小学校

1年 三上 紗奈 さん

わたしには4さいのおとうとがいます。なまえはしおんといいます。2さいのときに、せきずいのびょうきをして、たったり、あるいたりすることができなくなりました。じょうずにすわることもできなくて、いまはくるまいすでせいかつをしています。しおんはようほえんで、おともだちとこんちゅうのはなしをすることがすきです。「ヘラクレスオオカブトってしってる？さいだいなんだよ」ってじまんげにいつてきます。

わたしとおとうとはすごくなかよしです。いえではかぞくごっこをしてよくあそびます。いっしょにできないあそびもあるけど、わたしがかんがえたり、ルールをかえたりしてたのしくあそびます。しおんといるとたのしいし、ずっといっしょにいたいとおもっています。

おとうとはこのなつやすみにおおさかのびょういんに1かげつにゆういんしてくんれんをしていました。いまは、くるまいすからひとりでゆかにおりるれんしゅうをしています。おともだちはなつやすみであそんでいるのに、しおんはずっとくんれんをがんばっていました。いちにち4かいもです。くんれんがいやでないこともありましたが、ひとつひとつできないことができるようになって、ほんとうにすごいとおもいました。いえにかえってきてもくんれんはつづけているし、ほかのびょういんのリハビリもいつていて、いつもたいへんそうです。わたしもいっしょにいけるときはびょういんについていつて、しおんのきもちがたのしくなるようにリハビリのおてつだいをします。でも、いつもいつていけるわけじゃないので、すこししんぱいです。

このまえ、ちょっとかなしいことをききました。おとうとはわたしとおなじしょうがっこうにいけないかもしれないとおとうさんとおかあさんがいつていたことです。

わたしがかよったようほえんにいつているのに、わたしとおなじしょうがっこうにはいけないかもしれないなんて、ふしぎです。おとうとはなんでもできます。さいきんはひらがながよめるようになってきて、どうろのかんばんにかいてあるもじをよんだりして、かぞくをおどろかせたりします。

しおんのできないことは、ちょっとしたたすけで、みんなといっしょのせい

つをすることができるとおもいます。つくえからものをおとしたら、だれかひろってください。かいだんがのぼれなくてこまっていたら、だれかだっこしてください。きつとしおんは「ありがとう」ってちゃんといいます。じぶんのことをてつだってもらっておれいをいうことはすごいことではないけど、おとうのこともとくべつじゃなくてあたりまえになるといいなとおもいました。